

手の浸出液と蕁麻疹を経て皮膚状態が変化した青年期アトピーの経過 (18 歳女性)

症例 ID：001-10-IM5 | 記録日：2018 年 3 月 28 日

1. 診断・治療前経過

小学校 5 年生頃にお尻から症状が出始め、皮膚科でアトピー性皮膚炎とされ、ステロイド外用薬を用いた治療を受けていました。

高校 2 年生の秋頃から手の甲に症状が出始め、インフルエンザ後に急激に悪化しました。手から黄色いリンパ液が出て、全身に蕁麻疹も出るようになりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	小学生時代にステロイド外用薬を使用していました。高校期の悪化時にもステロイド外用薬が処方されましたが、怖さがあり使用しませんでした。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	小学生時代に使用歴があります。高校期は処方のみです。
中止時期	高校期の悪化時には使用せず、松本医院を受診しました。
来院前／後	来院前に使用歴と処方歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
小学校 5 年生頃	来院前	お尻に症状が出始め、皮膚科でステロイド外用薬を用いた治療を受けました。
高校 2 年秋頃	来院前	手の甲にカサカサとかゆみが出始めました。
インフルエンザ後	来院前ピーク	手から黄色いリンパ液が出て、全身に蕁麻疹が出るようになりました。抗ヒスタミン剤は使用していました。
松本医院受診後	治療開始	漢方の煎じ薬と外用薬による治療を始めました。
受診翌日～1 週間	初期変化	体液の量が減り、手の症状と蕁麻疹の強い痒みが少しずつ落ち着きました。
2～3 か月後	回復傾向	蕁麻疹は出なくなり、寒気、だるさ、肩こり、疲れやすさにも変化がみられました。
約 1 年後	経過後	手は普通の肌と同じようになり、悪化時の状態がわからないほどになりました。

4. ピーク時期

ピークは、インフルエンザ後に手から黄色いリンパ液が出て、全身に蕁麻疹が出た時期です。

5. 困りごと

- 強い痒みで抗ヒスタミン剤を使う必要があり、薬が切れると痒みが戻る状態でした。
- 高校生活や定期テストと症状が重なり、生活上の負担がありました。
- 手の皮膚から体液が止まらず、処置の負担がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



松本医院受診前の皮膚状態の記録。



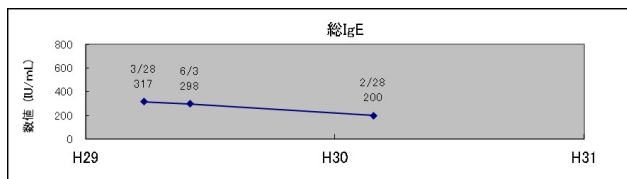
受診翌日の皮膚状態の記録。



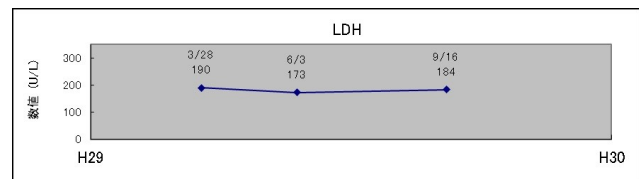
治療 1 週間後の皮膚状態の記録。



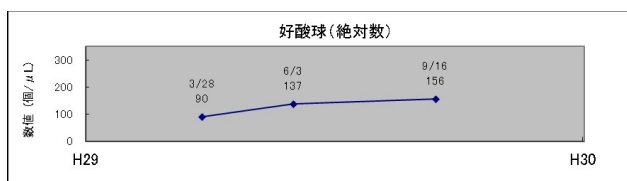
治療 1 年後の皮膚状態の記録。



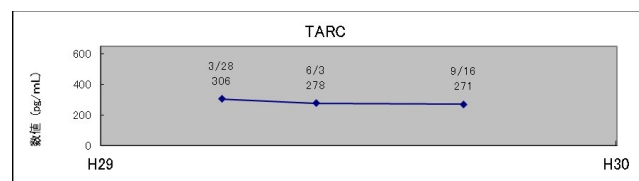
検査値グラフの記録。



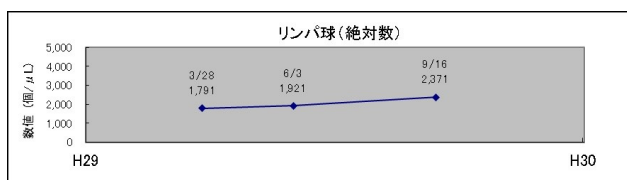
検査値グラフの記録。



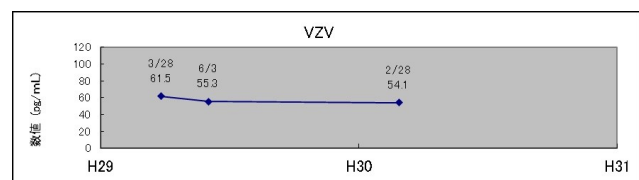
検査値グラフの記録。



検査値グラフの記録。



検査値グラフの記録。



検査値グラフの記録。

7. 経過のまとめ

小学校期からのアトピー症状に加え、高校期には手の浸出液と全身の蕁麻疹が強く出る状態となり、治療を開始しました。治療開始後は体液の量や蕁麻疹の痒みに変化があり、2～3 か月後には蕁麻疹は出なくなりました。

約 1 年後には手は普通の肌と同じような状態となり、強かった時期の皮膚状態がわからないほどになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。